

NEWS!

Vol. 41-3

No. 205

令和4年夏号

編集・発行

松浦機械製作所

5軸制御立形マシニングセンタ 新型 MX-520/MX-850 販売開始

「はじめてでも安心・簡単5軸」 **MX Series** 2機種をモデルチェンジ

マツウラは5軸制御立形マシニングセンタ「MX-520」及び「MX-850」の販売を開始します。

MX Series は「はじめてでも安心・簡単5軸」をキーワードに2010年から販売を開始。良好な操作性・高い加工能力・コストパフォーマンスが評価され、全世界のあらゆる産業で5軸加工入門機として確固たる実績を築いて参りました。

この度のモデルチェンジでは従来のコンセプトをそのままに最新のキーテクノロジーを融合し、生産効率・使い易さを向上させることで、お客様が抱える生産現場の効率化や労働力不足などの問題解決を実現します。

主な特長

- ① 4/5軸を高速化しサイクルタイム短縮を実現
- ② 自動化オプションで変種変量・無人運転に対応
- ③ 5軸加工・夜間無人運転を手厚くサポート



▲モデルチェンジしたMX-520



MX-520 PC4 & MX-850 PC4 ユーザーボイス

Flying S 社 (米国)
「マツウラ2台で他の5台分稼ぎました」



お問い合わせ先

(株)松浦機械製作所
営業本部 営業サポート

TEL : 0776-56-8105

FAX : 0776-56-8151

日本のへソ 福井 No.203



福井は日本のドマン中「日本のへソ福井」第203回目は「おしよりん」の話です。作家の藤岡陽子さんにより2016年小説『おしよりん』が発表されました。この小説は、本号のユーザーを訪ねてのコーナーにも登場する増永眼鏡様の創業者である増永五左衛門・幸八兄弟らによる眼鏡づくりの礎を築くために奮闘する様子が描かれています。2022年1月に『おしよりん』の映画化が発表され、全てのシーンにおいて福井県内で撮影されました。メインキャストを小泉孝太郎さんや北乃きいさんらが演じ、制作プロデューサーは勝山市出身の

河合広栄さんが務めます。河合さんは2018年公開のえちぜん鉄道を題材にした「えちてつ物語」も手掛けており、4年ぶりに福井県を舞台にした映画制作を手掛けます。

タイトルとなっている『おしよりん』とは、福井の古い方言で厳しい寒さにより、積もった雪の表面が凍りつき、その上を歩いても沈まずに歩けてしまうような状態を指します。『おしよりん』では、おしよりんの上を歩くように職人達が眼鏡づくりの道を力強く切り拓いていく姿を描いています。

撮影は4月にクランクアップしており、公開は2023年秋を目指して制作が進められています。2024年春予定の北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせて、この映画を機に福井への注目度が上がることを期待します。

ユーザー No.190 を訪ねて

増永眼鏡株式会社： 眼鏡産業の祖にリニアモータ

今回のユーザーを訪ねては、北陸自動車道の福井ICから車で15分の距離にある増永眼鏡株式会社です。マツウラが本社を構える福井県は眼鏡フレームの産地として知られ、国産眼鏡フレームの90%以上を生産しています。今や一大産業となった眼鏡づくりを福井の地に根付かせた『眼鏡産業の祖』こそが、今回の取材先である増永眼鏡株式会社です。取材には増永宗太郎代表取締役社長にご対応頂きました。増永社長は大学でマーケティングを専攻し、卒業後は日本商工会議所に入所されます。25歳で同社に入社し、2013年に5代目を継ぐ現職に就任されました。「卒業後すぐに家業を継ぐのではなく、一度別の業界で学びたいと考えました。お付き合いのある問屋さんなどで修業する道もありましたが『増永』のネームバリューが通用しない業界に身を置きたいと思い、日本商工会議所に入所しました。商工会議所では業務を通じて様々な中小企業の経営の在り方に触れることができました。当時の経験やそこで築いた人間関係は、経営者となった今では貴重な財産です」と増永社長。



▲増永眼鏡株式会社 外観

眼鏡産業の祖

高級眼鏡フレームの製造及び販売を手掛ける同社の歴史は、すなわち日本の眼鏡産業の歴史でもあります。増永社長の曾祖父であり、創業者の増永五左衛門氏は『眼鏡産業の祖』としてその功績を称えられています。五左衛門氏は1872年、麻生津村（現在の福井市生野町）に生を受けます。村の人々は農業を生業としましたが、冬季は深い雪に覆われるため農業のみに頼る当時の生活は貧しいものでした。「何か産業を興さなければ村の生活水準は上がらない」と考えた五左衛門氏は、弟の幸八氏と共に福井に眼鏡産業を根付かせるため奮闘します。技術指導に腕利きの職人を福井に招き、眼鏡づくりを開始した1905年6月1日が同社創業の日となります。「帳場制」と呼ばれる生産体制の下、同社の職人たちは技術を飛躍的に高めてゆきます。1933年には昭和天皇への献上品を作成、1970

年には当時の人気モデル「CUSTOM72」が大阪万博のタイムカプセルに収納されるなど、歴史的な逸品を数多く世に送り出します。2022年現在、同社は世界30カ国に製品を展開するグローバル企業に成長。「MASUNAGA」ブランドを冠した眼鏡フレームは、その品質とデザイン性から世界中で高い評価を得ています。日本の眼鏡産業の発展に寄与した増永兄弟の物語は、藤岡陽子さんの小説「おしよりん」に描かれ、この小説を原作とする同名の映画が2023年秋に公開予定です。

マツウラとの縁

「私の入社以前から当社にはマツウラの機械が設備されており、マツウラの存在は身近に感じていました。また、個人的にもマツウラとの浅からぬ縁を感じています。20年程前のエピソードです。当社が名古屋のホテル会場で小売店さん向けに眼鏡の展示会を主催した事がありました。偶然、近隣で工作機械関連の会合が開かれていたようで、当時マツウラの社長であった松浦正則前会長が展示会を覗



▲増永宗太郎 代表取締役社長

かれました。会場では様々な会話を交わし、その際に正則前会長が気に入った眼鏡を後日お持ちしたことを記憶しています。また松浦勝俊社長とは同じ高校出身の先輩後輩の関係でもあり、マツウラには様々な面において親近感を覚えています」とマツウラとの縁について語る増永社長。

サービス対応への信頼感

現在、当社では1973年に設備した汎用フライスVC-1000から、最新のハイプレジジョンリニアモータマシンLV-500に至るまで5台のマツウラ製品が稼働しており、いずれも眼鏡部品の金型や治具の加工に役立てられています。「50年近く前に設備した2台の汎用フライスVC-1000とVC-1800は今も現役で稼働しています。また2台の赤いマシンングセンタMC-560VとMC-600Vも当社のモノづくりを



▲現役で稼働するVC-1800

マシンがもたらした『ゆとり』

牽引してきた機械です。マツウラに対して特に信頼を置いている点はサービス対応の早さです。今年3月に設備した**LV-500**についても様々なメーカーを検討しましたが、最終的にはサービス対応への実績と信頼感が決め手となりました。機械トラブルに直面した際、修理部品の手配などに自社スタッフの労力を割くことは非効率的です。トラブルに惑わされず自社のモノづくりに集中できることは、生産設備として大きな意味を持ちます」と増永社長。



▲MC-560V(手前)とMC-600V(奥)

『ゆとり』が生んだ好循環

最新のリニアモータマシン**LV-500**は同社の生産性を大きく高めました。設備に至った経緯や得られた効果について、製造部門の責任者である田島信一工機課長にもお話を伺いました。「従来、眼鏡部品のプレス金型は部品の元となる原型を作り、それをコールドホッピング鋼に油圧で打ち込む方法で製作していましたが、近年は金型を直接彫り込む製作方法にシフトしつつあります。当社でも同様の加工を30年以上前のマシニングセンターで行っていましたが、旧型の機械では面精度に限界があり磨きに時間を要していたため、高速加工が可能な**LV-500**の設備に至りました。**LV-500**では直彫りのみで金型が製作できるようになり、新型開発における金型の製作時間が三分の一にまで短縮されました」と田島課長は語ります。増永社長も**LV-500**による生産性向上について次のように評価します。「加工時間の短縮が当社の製造部門に『ゆとり』を生みました。**LV-500**の設備以前は日々の作業に追われ、精神的にも肉体的にも負担となっていました。しかし加工時間が短縮されたことで、製造部門のカイゼン活動にリソースを割くことが出来る様になりました。当社のモノづくりの在り方を良い方向に変えていく、好循環を生むきっかけとなった機械です」

プロダクトアウトとマーケットインの融合

取材の最後に、同社の将来像について伺いました。「当

増永眼鏡株式会社 概要

本 社 〒918-8152
福井市今市町4-15
TEL 0776-38-1501
FAX 0776-38-7424

青 山 店 〒107-0061
(直営店) 東京都港区北青山2-12-34

代 表 者 代表取締役社長 増永宗太郎

創 業 1905年6月1日

従 業 員 数 182名

事 業 内 容 高級眼鏡フレームの製造及び販売

社は3年後の2025年に120周年を迎えます。眼鏡業界では一定の知名度を得ようになりましたが、一般のユーザー様にも当社のこと広く知って頂きたいと思っております。そのために、より気軽に眼鏡店に立ち寄り頂ける雰囲気を作りたいのですが、フレームメーカー単体で打ち出す施策には限界があります。レンズメーカーさん、小売店さん、検査機や加工機器のメーカーさんなど、業界全体を巻き込んだ取り組みが必要です。その先陣を切るため、当社の直販店を気軽に立ち寄れる眼鏡店のモデルケースとして役立てて貰いたいと考えています。そのような中でフレームメーカーとして当社が目指すべき方向性は『良いモノを作れば必ず評価される』という昔ながらのプロダクトアウトの思想を重んじながら、掛け心地や使い易さといったユーザー様の目線に立った、マーケットイン的発想を融合させた製品づくりを進めることだと考えます」と増永社長。



▲マツウラ機で加工された眼鏡部品の金型

LV-500の設備から増永社長はとある気づきを得たこのことです。「新しい設備を定期的に取り入れる必要性を改めて痛感しました。30年前の古い機械を大切に扱うことは当然良いことです。しかし、この30年間でマシニングセンターの性能は各段に向上しています。20~30代前後の若いオペレータには新しい機械を使いこなし、当社のモノづくりの未来を支えて欲しいと考えるようになりました。先に述べた生産性の向上を鑑みても、本当に思い切って設備して良かったと感じています」と増永社長。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取りご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



製品紹介

Linear Motor Series

“ユーザーを訪ねて”にも登場した **LV-500**。

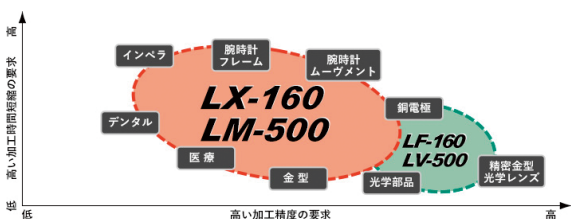
4月に同機種を含む4機種同時リリースした **Linear Motor Series** について、開発者のメッセージとともに紹介いたします。

主な特長

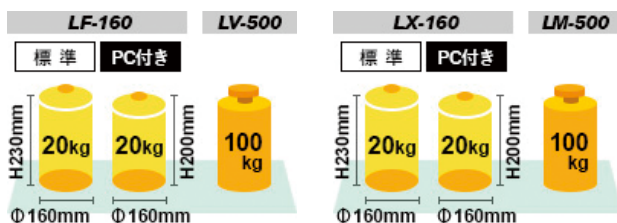
- ① 工程短縮・標準化・品質管理など、生産現場を効率化する加工精度を実現
- ② 人手不足解消のため、省人化と生産性向上を両立する拡張性の高い自動化システムに対応
- ③ はじめてでも安心して5軸加工・長時間無人運転が実現できるよう充実のサポート機能を標準搭載
- ④ 環境保護の取り組みをサポートするため、自動電源遮断機能を搭載し無駄な消費電力を削減



市場ニーズに対応したラインナップ



最大ワークサイズ



開発担当

開発担当
技術本部 開発研究
シニアチーフ

木村 文武

— 開発当時のコンセプト

きっかけは同シリーズ機ユーザーの設備更新でした。開発機の要望として、金型などの磨きレス加工：表面粗さRa0.1 μ m以下、寸法精度の向上： $\pm 2.5\mu$ m以下が挙げられ、11年ぶりのモデルチェンジということもあり、チャレンジングな目標値を掲げました。これら要求を満たすべく、技術本部内の各セクションで何が影響するかを分析し、開発機で実際に加工しながら問題を潰しこんでいきました。

— 開発当時のこだわり

開発コンセプトの2点の他、ユーザー目線での使いやすさにもこだわって設計しています。まずは、従来機からガードの設計を一新し、開口部を広げることで作業性を向上させています。機内においても、切粉の排出性を良く

開発者インタビュー

するために、機内のボルトをなくす設計や底面の角度を工夫しています。外観では、**Matsura** ロゴにイルミネーションをあしらい、先進性を表現しました。

— 開発で苦労したエピソード

主軸に関してこの **Linear Motor Series** は、高剛性を保ちつつ、高精度を実現するために主軸の振動を低く抑える必要がありました。剛性を高めるには主軸内の隙間を埋める必要があるのですが、隙間を埋めすぎると、主軸が高速回転するほど熱を持ち熱変位によって内部が膨張して故障の原因に繋がります。一方で、隙間を空けすぎると内部でガタつきが起きて振動発生の原因となります。この相反する要求に対応するため、熱変位を小さく抑えることやバランスを複数度とるようにするなど、これまでの応用ではなく一から見直した開発を行いました。

— 開発者が提案する機械の活用法

Linear Motor Series は何か1つに特化した機種ではなく、1台で荒加工から高速高精度加工までできるオールマイティな機種です。ユーザーの皆様には、この機種をぜひ幅広い場面で利用して頂きたいと思います。

本件に関するお問い合わせは、営業本部 営業サポートまでお願いします。
TEL: 0776-56-8105 FAX: 0776-56-8151

Linear Motor Series
ご紹介ページ



GibbsCAM 2022年下期Webセミナー開催

GibbsCAMは、シンプルインターフェイスで初心者でも簡単に扱うことが可能なマツウラが販売するCAMソフトです。マツウラでは、**GibbsCAM**をさらに効果的にご利用頂くべく、メンテナンス加入のユーザー様を対象にWebセミナーを開催しております。

2022年下期の開催スケジュールを下記の通り、ご案内いたします。

- 1 2DCAD/CAM コース** 8月23日(火)~24日(水) 9:00~16:00
GibbsCAMの基本操作・図形作成・2.5Dツールパス作成等を習得
- 2 Advenced CS コース** 8月25日(木) 9:00~16:00
Advanced CS (割出加工)の基本操作を習得
- 3 3DCAD/CAM コース** 9月13日(火)~14日(水) 9:00~16:00
3Dモデル作成と3Dツールパス作成の基本操作等を習得
- 4 Advenced 3D コース** 9月15日(木) 9:00~16:00
Advanced 3Dの基本操作を習得
- 5 5-Axis コース** 11月29日(火)~30日(水) 9:00~16:00
5-Axis (同時5軸加工)ツールパス作成の基本操作を習得

Webセミナーの受講予約など、詳細については**GibbsCAM**特設ページをご覧ください。

GibbsCAM
特設ページ



お問い合わせ先

営業本部
生産支援システム
TEL:0776-56-8107

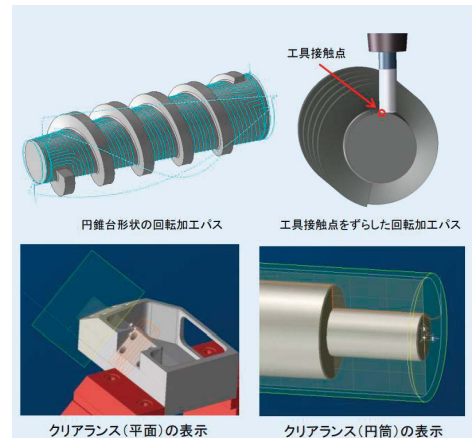
GibbsCAM 2022リリースのご案内

GibbsCAMは更なる使い易さと使い勝手を向上させた**GibbsCAM 2022**をリリースいたしました。新たに追加された機能を動画にて紹介しております。

下記QRコードまたは、特設ページよりご覧ください。

主な新機能

- ソリッド、シートモデリングの利便性向上
- 回転加工機能の追加
- バリ取り加工 複数カットの対応
- クリアランス位置の表示
- シミュレーション機能改善



取締役 松浦 悠人

コラム



「会社を変えるのは難しい」最近をよく実感します。このままではいけない、何かなくては、という思いだけでの提案では空回りばかりのようです。先日、様々な県内企業の方と「DXを進めるリーダーの素質は何か？」というディスカッションをする機会がありました。一番多かった回答は、“他人を巻き込む力”でした。

他人を巻き込むにはどうすべきか。目指すべきこと、やりたいことを説明して、新しくこれをやってくださいと説明したところで決して動いてはくれません。私は課題解決の実績を作るしかないと考えます。やってみてのメリットを感じてもらおう、この人に協力すれば何かが変わると信じてもらおう、そのために、結果とその実感が必要なのです。そして、最初から他人を巻き込むと事が進まない以上、まずは自分達だけで実績を作らねばなりません。

自分達で課題解決してやるという気概があれば何でもできる、とは信じているのですが、ボトルネックがあるとも感じます。それは課題解決には課題が必要ということ。問題だらけの会社でも、問題の細分化と具体化、これができないと何も始まりません。社内に聞いて回っても、ちょうどいい課題を見つけることは本当に難しい。時々、私にもっと設計や工作機械の現場のリアルを理解する力があれば…と思います。結局、社内も提案営業。「何でもやるから教えてくれ」ではなく、「こういう課題ありますよね」「ああ、確かに」と思わせないといけないでしょう。

人不足だから。忙しいから。日本を拠点にビジネスをする以上、人不足は今後も悪化の一途をたどるでしょう。今だからこそ、打つ一手や改革に価値があるのではないのでしょうか。今後、基幹システム刷新などを通じて現場をもっと理解できるように努めます。されど、この文章を読んで、少しでも後押ししていただける方はDX推進室に仕事をください。お願いします。

海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツにて積極的に発信しております。本誌では、配信中の動画からピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

DISHON社 カナダ

マツウラが無ければ絶対にできなかった



DISHON社はカナダに拠点を置き、航空・防衛産業向けの受託加工を手掛けています。同社の顧客には航空宇宙・防衛分野の多国籍企業Safranグループや、エネルギー関連機器の開発・製造における世界最大手のSchlumbergerグループなどが名を連ねます。

同社では高付加価値製品であるバルブマニホールドの量産プロジェクトのため**MX-330**と**MAM72-35V**の2台を導入しました。同社の社長であるDishy氏はマツウラ製品を次のように評価します。

- 「最も大きく変わった点は無人運転が可能になったことです。素材さえ段取りすれば24時間365日稼働してくれるので、より多くの仕事、よりたくさんの生産量をこなすことができます」
- 「難削材である高硬度材を加工していますが、機械からは毎日非常に高精度な部品が出来上がってきます。**MAM72-35V**の加工精度は本当に毎日安定しています」
- 「現在当社は毎年20～25%の割合で成長していますが、これはマツウラの機械が無ければ絶対にできなかったことだと思います」

毎年20%の成長とは驚きの数字です。今後、同社の更なる成長にマツウラ機が貢献できる事を願っております。



Precision Products社 アメリカ

電極製作コストを90%削減



前号にてご紹介したアメリカの金属加工会社、Precision Products社の続編です。同社では2015年に初のマツウラ機となる**LX-160 PC42**を導入し、2021年には**MX-330 PC10**、そして今年1月には**MAM72-35V PC32**を立て続けに導入いただきました。

LX-160 PC42ではグラフィットの切削・研削を行っており、6年間、最高回転数の46,000回転で使用され、作業中にぶつけた事もあると述べられています。しかし、機械の衝突への素早い反応もあり、主軸の故障が一度もないとマツウラの主軸を高く評価されています。

Bruce氏は、今回のインタビューで使用されている**LX-160 PC42**やマツウラ的设计について次のように語っています。

- 「以前は電極1個の製作に100ドルかかっていました。しかし、**LX-160 PC42**を導入し自動化をしてからは、電極1個で10ドル程です」
- 「どの機種も同じ設計理念から無人運転に特化して設計されており素晴らしいです。自動化に加えて機械の加工精度が安定しているので毎回感心しています」
- 「リニアモーター駆動でとても早く、とても正確、スピンドルも故障しません」

約9割のコストダウン、これはまさにイノベーションと言えるでしょう。



新体制のご紹介

品質本部



品質本部長 加藤 敏彦

品質本部長の加藤です。今年で勤続32年目になりますが、大半を技術部門にて機械設計業務に従事しました。その間、**H.MAX**や**MAM**シリーズなどの設計を行い、2018年に品質本部へ異動してからはそれまで設計した機械に対する様々な問題の対応や品質向上に努めています。

上に努めています。

お客様に満足していただける機械を提供する事。そして使用していただいている機械に何らかの問題が発生した場合に迅速なサービスを提供する。このために2つの大きな目標を掲げています。1つは製品品質の向上と安定です。品質本部には2つの部門があります。そのうちの1つが品質保証です。品質保証では主に出荷される機械の最終検査を担当しています。この検査品質が納入後の機械品質に大きく影響します。このため、「品質の門番」として、強化を図っています。

もう1つはサービス体制の強化です。品質本部のもう1つの部門としてカスタマーサポートがあります。カスタマーサポートはいわゆるサービス部門です。納入された機械で発生するトラブルを迅速に解決し、機械の早期復旧に努めています。コロナ禍での行動制限が緩和され、お客様の機械稼働率も上がってきています。それに伴いサービスコールも増え、コロナ禍前よりも多くなっています。サービス人員も増やしていますが、お客様のご要望に直ぐにお答えできていない事もあり、今年から福岡県と宮城県にサービス員を1名ずつ配置しました。

この2つの目標を下支えする人材教育にも力を入れています。機械の検査員と客先対応のサービス員を対象に新たなスキルマップを作成。一人一人の能力に合わせたスキルアップトレーニングを作成し、スキルの向上を目指しています。また、社内認定制度構築も始めており、継続した教育を行っています。

この他、動画手順書の作成や予防メンテナンスの推進などの取り組みも始めています。今後もお客様満足度向上に努め、お客様から選ばれる会社、選ばれる機械を目指して、様々な取り組みに挑戦していきます。

シングルorダブル

イノベーション



社長 松浦 勝俊

先日、常々勉強されている経営者の方から大変興味深いお話を聞く機会がありました。米国カリフォルニア州シリコンバレーの中心にある名門スタンフォード大学。その大学内にあるシリコンバレーのスタートアップ企業育成に多大な貢献をしている教育機関「Hasso

Plattner Institute of Design」通称「d.school」は、デザイン思考を実践しその具体的手法を体系的に教えてくれる講座を提供しています。同大学のどの学部・大学院に属している学生も受講ができ、また外部にも参加が許されるワークショップ等が開催されています。ここでいうデザインとは、新しいビジネスモデルを生み出すことや多種多様な問題解決をすること、つまりイノベーションを創り出すことを意味しています。その方が実際にワークショップを受講され、企業経営においてこれまでにない新しい製品やサービスを生み出すことの重要性を改めて思い知らされた経験をしたことでした。

まず課題として、「ビジネスでイノベーションを生み

出すために思い付くアイデアを全て書き出せ」というもの。現役の経営者として頭を捻り出して色々思い付くものを書き出してみるわけですが、さて皆さん、どのくらいの数のアイデアを書き出せますか？私なんか既存のビジネスとの関わり合いや実現性やリスクを考えながら何とかアイデアを捻り出すのですが、どんなに頑張ってもせいぜい20ぐらいでしょうか。

なんとd.school日く、経験上シリコンバレーで成功する人は、最低でも500、平均で1,000を切るくらいアイデアを出すそうです。その内の2、3の独創的な尖ったアイデアが実を結び新しいビジネスとして成功しているとのことでした。その後のワークショップは、出されたアイデアを元に実践的なデザイン思考を用いた講義へと進んで行ったわけですが、私は、先ず成功する人が書き出したこの驚異的な数字に驚かされたことと、それにそのようなイノベーションを起こすことを体系的に教えている教育システムが存在する米国の奥深さに唖らされました。成る程シリコンバレーで優秀な人材を輩出する環境が、GAF Aのような独創的な企業を生み出して来たわけですね。

経営者として、如何にイノベーションを起こすか、常々考えなければいけないと深く感じた次第です。

お知らせ

1 「JIMTOF 2022」に出展予定

JIMTOF 2022

第31回 日本国際工作機械見本市
2022年11月8日(火)~13日(日)
東京ビッグサイト(東京国際展示場)
主催：一般社団法人日本工作機械工業会・後援：国土交通省・経済産業省

特別企画 Additive Manufacturing エリア in JIMTOF 2022

会期：2022年11月8日(火)~13日(日)
会場：東京ビッグサイト

マツウラは第31回 日本国際工作機械見本市「JIMTOF 2022」への出展を予定しております。

アジア最大級の工作機械見本市「JIMTOF」は1962年の第1回から数えて今年で60周年を迎えます。4年振りのリアル開催となる今回の出展規模は861社、5,610小間と過去最多の出展小間数となります。

東京ビッグサイト全館が使用され、2019年に竣工した南展示棟では特別企画「Additive Manufacturing エリア in JIMTOF 2022」が実施されます。

2 「IMTS 2022」に出展予定

マツウラは米国シカゴで開催される世界三大工作機械見本市の一つ「IMTS 2022」への出展を予定しています。



会期：2022年9月12日(月)~17日(土)
会場：シカゴ/McCormick Place

3 地元高校生の職業体験を受入



マツウラは地域貢献の一環として高校生の職場体験を受け入れています。直近では6月~7月に坂井高校から3名、科学技術高校から3名が参加しました。

参加した学生からは「授業よりも実践的な技能が身に付いた」「働く事の大変さと充実感を知ることができた」などの感想を頂きました。

4 仙台出張所 開設のご案内



この度 営業拠点拡充のため、関東営業所管轄 仙台出張所を下記の住所で開設致しました。これからも皆様方のご期待にお応えできまよう、さらに営業活動に専念して参ります。

〒980-0022
宮城県仙台市青葉区五橋 1丁目4-24
ライオンズビル五橋 805号室

ご連絡は下記、関東営業所へお願い致します。
TEL：048-633-9500
FAX：048-633-9550

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から5月度の受注状況が発表されました。5月度の工作機械受注額は1,533億円(前月比99%)と3か月連続で1,500億円を超え、好調に推移しています。内需は495億円(前月比93%)と前年同月比では15ヶ月連続増加で、一般機械や自動車関連が前月から減少したものの、半導体関連を中心に受注金額は堅調に推移しています。外需は1,038億円(前月比102%)とアジア、欧州、北米ともに高水準の受注が続いています。アジアでは3ヶ月連続で450億円

を超え、好調が続く中国や大きく増加した韓国が受注額を牽引しています。欧州では、2ヶ月連続で200億円を上回り、EUや西欧諸国を中心に堅調な推移が続いています。北米では、自動車関連の大型受注もあり3ヶ月連続で300億円を超え、3月に記録した過去最高額を2ヶ月ぶりに更新しています。

* 企業の採用活動、学生の就職活動の両面において、インターンシップの重要度は年々増えています。株式会社マイナビによると2023年卒学生のインターンシップ参加率は8割を超えており、2017年卒学生の参加率は5割ほどであったことから、ここ数年でインターンシップに

参加することが一般的になったことが伺えます。弊社においても6月より2022年度インターンシップの参加募集を始めました。コースは2つ設定しており、理系学生対象で設計業務が体験できる5Daysコース、気軽に企業研究ができる1Dayコースを用意しております。特に技術職体験5Daysコースは今年で開催8年目を迎え、技術本部が主体となり、機械設計・電気設計・AM開発・加工技術といった様々な技術職の業務を学生に体験して頂いています。マツウラでは、学生にモノづくりの醍醐味を知ってもらおうべく、今後も様々な形で学生へ職業体験の機会を提供してまいります。